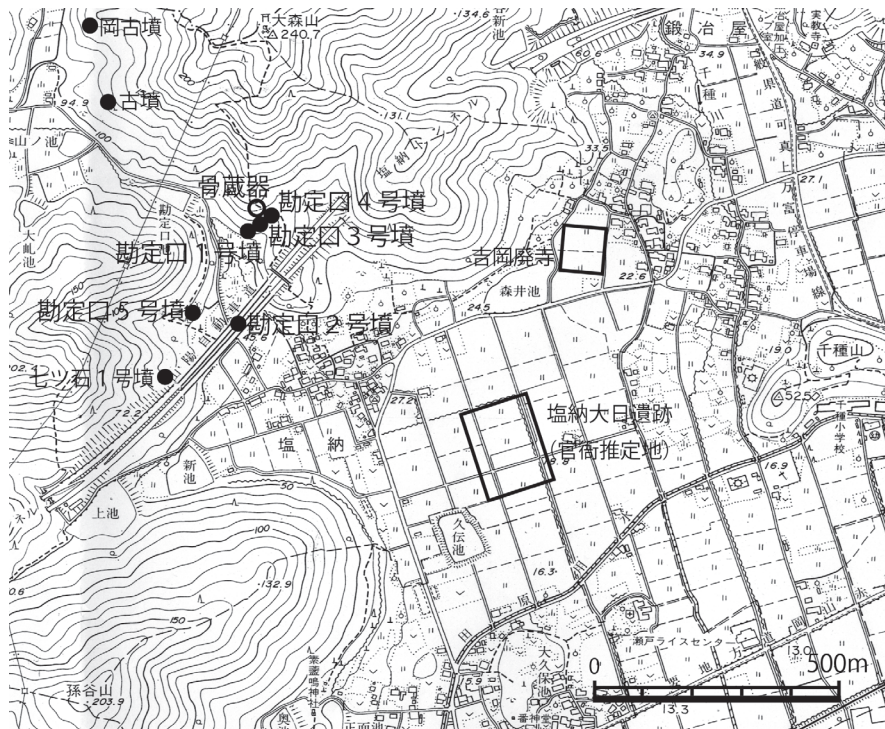


勘定口古墳群

岡本芳明

【遺跡の位置】



【遺跡の概要】

勘定口古墳群は、6世紀後半から7世紀後半にかけて営まれた古墳群で、岡山市東区瀬戸町塩納字勘定口に所在する。大森山と龍王山に挟まれた谷の山裾に分布し、塩納集落を見下ろす位置にある。これまでの調査で1号墳から5号墳まで確認されている。吉井川の水運と陸路が交差する交通の要所となる万富平野一帯を掌握した首長墓群と思われる、東約600m先にある白鳳期創建の吉岡廃寺の造立者との関係が推測される。また、古墳群付近で8世紀前半に営まれた火葬墓に伴う骨蔵器が採集されている。なお、これら古墳は開発によってほぼ消滅した。

1号墳は、大森山南裾に位置し、墳丘内に石積を持つ径約14mの円墳で、奥壁幅約180cmの無袖の横穴式石室を持つ。6世紀後半に築造、7世紀前半にかけて数度の追葬が行われている。耳環や鉄釘の出土から、少なくとも4人が木棺により埋葬されたと思われる。閉塞部付近から出土した長胴甕や甑などの炊飯具から、追送時の葬送儀礼の状況が良好に残されていた。

2号墳は、1号墳から南へ約200mと離れた谷口に位置する。径約14mの円墳で、奥壁幅約150cmの無袖の横穴式石室を持つ。7世紀前半に木棺と陶棺による数度の追葬が行われている。石室内から多数の鉄滓が採集されていることから鉄生産への関わりが指摘されている。

3号墳は、1号墳の北東に隣接する奥壁幅約70cmの小規模な横穴式石室を持つ。周溝の痕跡から径約7mの円墳と推測される。石室内部から転落したと思われる須恵器から、7世紀後半のものと考えられる。

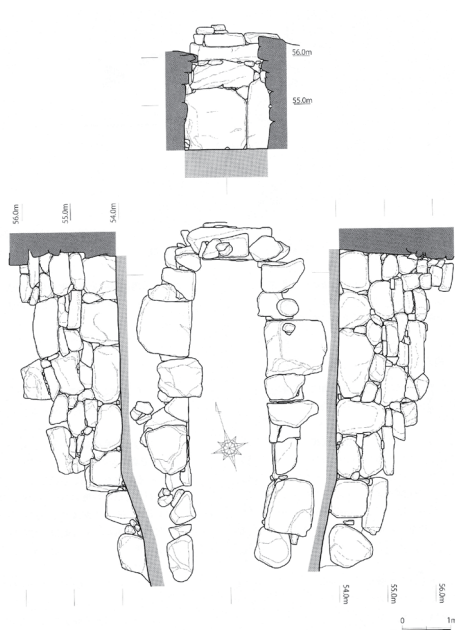
4号墳は、3号墳の北東約10mにある奥壁幅約50cmの小規模な横穴式石室を持つ古墳で、副葬品は確認できなかった。3号墳よりも簡略化された傾向にあり、3号墳よりあとの7世紀代に築造されたものと推測されている。

5号墳は、1号墳とは谷を隔てた南西約200mの龍王山南東裾に位置する。奥壁幅約90cmの横穴式石室を持つ古墳である。石室規模などから7世紀前半代に築造されたものと推測されている。

【参考文献】

- 福田正継 1995「勘定口2号墳」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告99』岡山県教育委員会
 岡本芳明、河田健司 2014「勘定口古墳群」『塩納遺跡A地点 勘定口古墳群』岡山市教育委員会
 寒川史也 2016「勘定口2号窯・勘定口4号墳」『岡山市埋蔵文化財センター年報15』岡山市教育委員会
 寒川史也 2017「勘定口5号墳」『岡山市埋蔵文化財センター年報16』岡山市教育委員会
 岡本芳明 2018「勘定口古墳群に近接して採集された骨蔵器」『岡山市埋蔵文化財センター紀要10』岡山市教育委員会

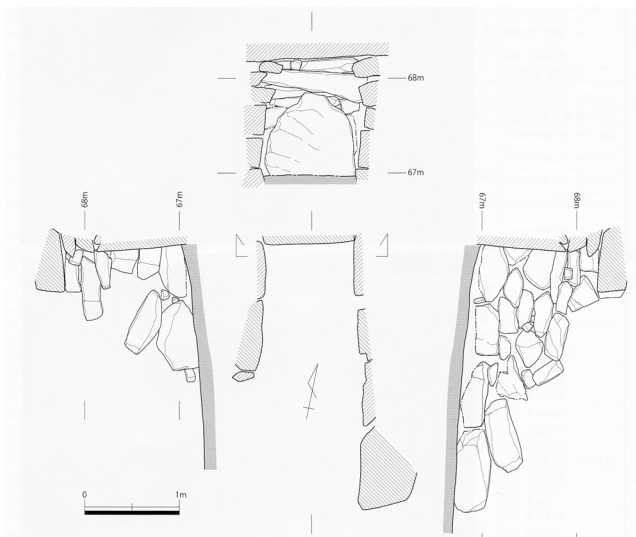
【交通】 勘定口古墳群：JR山陽本線「万富駅」から北西へ徒歩約30分（瀬戸町塩納地内）



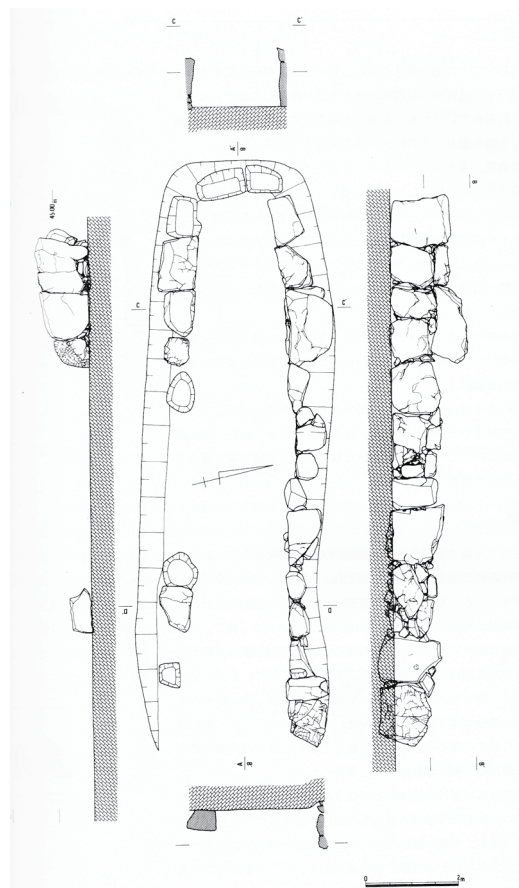
1号墳石室



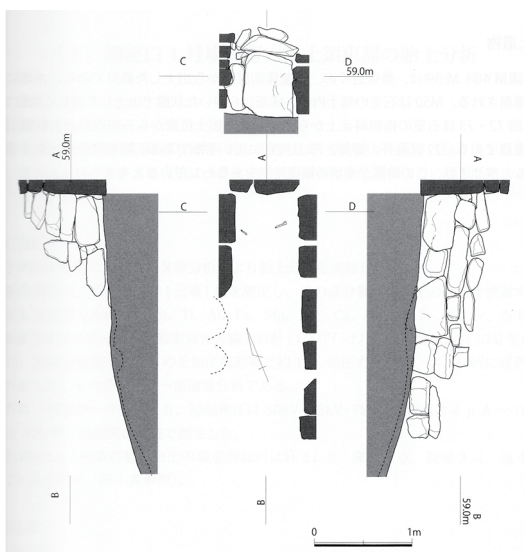
1号墳石室閉塞部付近から出土した炊飯具



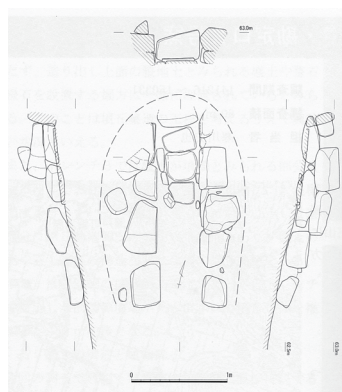
5号墳石室



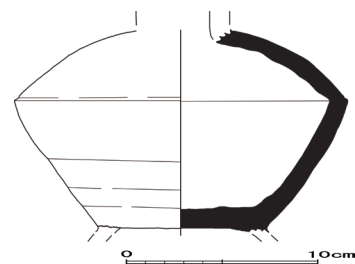
2号墳石室



3号墳石室



4号墳石室



骨臓器